

こころとからだのしくみ I

担当教員 吉岡 久美

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

地域で生活する生活困難を抱えた方々への課題解決を見出すことができる力を身につけることを目的とする。生活支援に必要な介護技術の根拠となる人体の構造や機能および生活援助サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。

【授業の展開計画】

【科目担当者：吉岡 実務経験】大学病院（看護師）一般病院（看護師長）訪問看護ステーション（管理者）

【全体の内容の概要】医学・心理的知識をもとに、身じたく・移動・食事・排泄といった生活に欠かすことのできない分野に関連したこころとからだのしくみについて理解する。

【到達目標】身体構造・心理的側面を理解し、安全・安楽な身じたく・移動・食事・排泄のしくみが理解でき、発達段階をもとに障害や認知症などの心身の状況に応じた介護のアセスメント能力を身につける。

週	授 業 の 内 容
1	人体の構造と機能、障害や認知症を理解し、生活機能低下における生活行動への影響を理解する。
2	身じたくに関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。
3	身体や認知機能低下・障害が及ぼす整容行動への影響、生活場面での変化の気づきと連携を学ぶ。
4	身じたくに関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
5	移動に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。
6	身体や認知機能低下・障害が及ぼす移動への影響と、生活場面における変化の気づきと連携を学ぶ。
7	移動に関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
8	食事に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。
9	食べることに関連したこころとからだのしくみを理解する。
10	身体や認知機能低下・障害が及ぼす食事への影響と、生活場面における変化の気づきと連携を学ぶ。
11	食事に関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
12	排泄に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。
13	身体や認知機能低下・障害が及ぼす排泄への影響と、生活場面における変化の気づきと連携を学ぶ。
14	排泄に関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
15	身じたく・移動・食事・排泄、認知症状の理解と心理的変化の理解を統合した支援の視点を学ぶ。

【履修上の注意事項】

学則の出席規定を遵守すること。出席不足の学生は評価対象としない。

演習等をおりまぜながら授業展開するため、積極的に取り組み、課題提出期限を守ること。

期限を過ぎた提出物は評価対象としない。

事前学習として、講義で示している単元のテキストを読んでもらうこと。（30分）

事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおし、課題に取り組むこと。（30分）

【評価方法】

筆記試験 80%

演習参加状況、課題提出 20%

課題にはコメントを入れて返却する

【テキスト】

メジカルフレンド社 こころとからだのしくみ

【参考文献】

中央法規出版 こころとからだのしくみ